

臼杵市 事務事業評価シート
(平成 28 年度)

番号	課名	グループ名
D - 14	建設課	用地管理グループ

事務事業名	野津東部工場適地の環境整備							新規・継続	継続	
								ソフト・ハード	ソフト	
総合計画との関連	主要施策名(施策コード)	IV-10-20	地場企業の育成・企業誘致							
	関連施策名(施策コード)									
基本項目	事業内容(経緯)	野津東部工場適地内の字図整理及び確定測量								
	行動指標	指標名	説明・算式・引用	単位	実績の推移			H28実績値	H31計画値	
					H25	H26	H27			
		①	境界確定面積率	約150ha部分	%		20	30	50	100
		②	境界測量面積率	約150ha部分	%		20	30	50	100
成果指標	③	字図整理面積率	約150ha部分	%		20	30	50	100	
	④	開発行為範囲の確定作業面積率	約50ha部分(開発面積30ha)	%		50	80	100	100	
事業対象	企業誘致等市有地の活用予定者	成果	字図適正化・適地内面積が確定し、企業誘致の推進が図られました。							
成果指標	指標名	説明・算式・引用	単位	実績の推移			H28実績値	H31計画値		
				H25	H26	H27				
	字図整備及び測量進捗率	整備済面積/総面積	%	0/150	20	30	50	100		

コスト 事業費+人件費	フルコスト(千円)	内訳	国庫補助金(千円)	県補助金(千円)	市債(千円)	使用料・手数料・その他(千円)	一般財源(千円)
	8,562						8,562

評価の視点	必要性	目的が市民ニーズに照らして妥当か A: 適応している B: 一部適応していない C: 適応していない	理由
	有効性	目的や目標に照らして予想される効果が得られるか A: 期待したとおりの効果がある B: 期待したほどの効果が見られない C: 効果が少ない	企業誘致は必要と考えられ、市有地の整備を行うにあたり字図整備を優先的に行わなければなりません。円滑に土地整備を行うためにも必要性は高いと考えられます。
	効率性	行政資源量(特にコスト)に対し合った効果があるか A: 効率的に効果が出ている B: 改善の余地がややある C: 効率的に効果が出ていない	企業誘致観点からも字図整理及び測量は必要であり、将来的な効果が期待できる土地の確保・流通経路整備の早期実現に有効と考えます。
事業の問題・課題	法務局と臼杵市保管の原図及び旧図の相違がある場合、現場確認により調整・法務局との協議等に時間がかかります。広大な面積と草木など鬱蒼とした場所であることから、更に確認作業の難航が予想されます。		
前年度の改善案	大字ごとに調査を行い、閉鎖漏れ部分・白地・無地番土地等を確認するとともに、大字の境界を合わせた時の空白地を調査し、国の土地か否か等の確認を行い、字図整理・訂正を継続して行うことが必要と考えます。		
具体的な改善案	旧字図の閉鎖漏れ及び白地・空白地等がある場合、適正な図面で説明ができないため、字図内の整理及び各字図の接地部分訂正等を行う必要があり、法務局等との十分な協議継続を行いたいと考えます。		

課長評価	現状のまま継続する(継続)	理由	企業誘致観点からも字図整理及び測量は必要であり、将来的な効果が期待できる土地の確保・流通経路整備の早期実現に有効と考えます。
------	---------------	----	--

臼杵市 事務事業評価シート
(平成 28 年度)

番号	課名	グループ名
D - 15	建設課	土木

事務事業名	工場適地周辺整備事業（市道熊迫線）						新規・継続 ソフト・ハード	継続 ハード		
総合計画との関連	主要施策名 (施策コード)	IV-10-20	地場企業の育成・企業誘致							
	関連施策名 (施策コード)	VI-17-38	適正な道路整備及び災害にも強い道路網							
事業内容 (経緯)	ゴルフ場建設予定地として所有していた小郡カントリーより、臼杵市に譲渡されたことから「野津東部地区工場適地」として位置づけられ、その周辺道路整備を目的として市道熊迫線の整備を行っています。									
基本項目	行動指標	指標名	説明・算式・引用	単位	実績の推移			H28 実績値	H31 計画値	
					H25	H26	H27			
		①	整備済延長	事業費による換算延長	m	0	23	60	64	100
		②								
	③									
④										
事業対象	誘致企業及び道路利用者		成果	工場誘致のためのアクセス道路等周辺整備を行うことで、産業・経済の発展が見込まれます。また、近隣に居住する方の地域間の交流や生活範囲の拡大が図られます。						
成果指標	指標名	説明・算式・引用	単位	実績の推移			H28 実績値	H31 計画値		
				H25	H26	H27				
	道路改良率	整備済延長／全体計画延長	%	473/180 0=26%	496/180 0=28%	556/180 0=30.9%	620/180 0=34.4%	1000/180 0=56.0%		

コスト 事業費+人件費	フルコスト（千円）	内訳	国庫補助金（千円）	県補助金（千円）	市債（千円）	使用料・手数料・その他（千円）	一般財源（千円）
	10,816				8,700		2,116

評価の視点	評価	判断基準		理由
	必要性	目的が市民ニーズに照らして妥当か		若者の定住促進を促進するためにも企業誘致は必要と考えられる。そのためには、周辺道路整備は必需であり事業の必要性は高いと言えます。
		A	A：適応している B：一部適応していない C：適応していない	
	有効性	目的や目標に照らして予想される効果が得られるか		企業誘致を行うためにも円滑な流通経路の整備は必要であり将来的な効果が期待できると考えます。
A		A：期待したとおりの効果がある B：期待したほどの効果が見られない C：効果が少ない		
効率性	行政資源量（特にコスト）に対し合った効果があるか		道路整備と平行して水道管の更新も併せて行っていくよう効率的な整備を行います。	
	A	A：効率的に効果が出ている B：改善の余地がややある C：効率的に効果が出ていない		
事業の問題・課題	現在、用地の取得を計画的に行っているが、一部難航している土地もある。今後とも継続的に交渉を行いたい。			
前年度の改善案	用地取得で地権者との交渉が難航しているが、地権者が抱えている問題等の話を聞きながら進めている。			
具体的な改善案	用地取得が完了してないが、少しずつ工事を進めていき、用地の取得が終了していない土地については、今後とも所有者と交渉を行っていき、事業の進捗を図りたいと考えている。			

課長評価	現状のまま継続する（継続）	理由	企業が決まっていない中での道路改良は住民の意識もすこし薄いようである。しかし企業と住民が共生するための一つの事業として重要である。
------	---------------	----	---

番号	課名	グループ名
D - 16	農林振興課	農林基盤整備室(地籍)

事務事業名		地籍調査事業						新規・継続	継続	
								ソフト・ハード	ソフト	
総合計画との関連	主要施策名(施策コード)	VI-19-46	情報基盤の整備							
	関連施策名(施策コード)									
基本項目	事業内容(経緯)	<p>地籍調査事業とは、登記簿・字図等を基に、一筆ごとの土地について正しい位置・境界・番地・地目・所有者・面積等を明確にし、新しい地図(地籍図)と台帳(地籍簿)を作成する業務です。臼杵地域は平成14年から、野津地域は平成7年から事業を実施しています。</p> <p>◆臼杵地区(2区域)：大字市浜の一部①一筆地調査(E工程)※今年度着手 ②地籍図及び地積簿の作成(閲覧)(H工程)※H26年度着手 ◆野津地区(1区域)：大字白岩の一部 測量調査(D・F・G工程)※H27年度着手</p>								
	行動指標	指標名	説明・算式・引用	単位	実績の推移			H28実績値	H31計画値	
					H25	H26	H27			
		①	地籍調査実施面積(事業計画面積275.42km ²)	調査実施面積	km ²	35	36	36	37	38
		②								
	③									
	④									
	事業対象	市内全域の土地(国有林等、例外あり)	成果	◆臼杵地区(2区域)：大字市浜の一部①一筆地調査464筆終了 ②地籍図及び地積簿の作成(閲覧)787筆終了 ◆野津地区(1区域)：大字白岩の一部 測量調査(D・F・G工程)0.76km ² 終了						
成果指標	指標名	説明・算式・引用	単位	実績の推移			H28実績値	H31計画値		
				H25	H26	H27				
	地籍調査達成率(進捗率)	調査済面積÷計画面積	%	13	13	13	13	14		

コスト 事業費+人件費	フルコスト(千円)	内訳	国庫補助金(千円)	県補助金(千円)	市債(千円)	使用料・手数料・その他(千円)	一般財源(千円)
	35,459		11,100	5,550	5,550		13,259

評価の視点	評価	判断基準		理由
	必要性	目的が市民ニーズに照らして妥当か	A: 適応している B: 一部適応していない C: 適応していない	本調査により正確な地図ができ、境界復元が可能になり、災害時における住宅再建や道路の早期復旧に役立ちます。また、境界紛争予防効果も期待されます。
	有効性	目的や目標に照らして予想される効果が得られるか	A: 期待したとおりの効果がある B: 期待したほどの効果が見られない C: 効果が少ない	土地所有者に関する権利が明確に保全されると共に、現地と公図が一致し個人財産が保護されます。
	効率性	行政資源量(特にコスト)に対し合った効果があるか	A: 効率的に効果が出ている B: 改善の余地がややある C: 効率的に効果が出ていない	地籍調査実施地区において公共工事を行う場合、境界確認業務等を省略できるので、未実施地区に比べて低コストで行えるメリットがあります。
事業の問題・課題	公図と現地の状況の相違・境界立会時点での隣接地所有者との主張の相違・現地立会人の世代交代による障害(境の認識不足)により、筆界確認が困難な場合があります。また、長期間にわたる継続事業でもあり、早期事業完了に向けて、国・県等の対応が急がれます。			
前年度の改善案	筆界未定(土地の境界が決まらない状態)をなくすために、地籍調査推進委員に立会をお願いして、境界確認がスムーズに行えるようにします。			
具体的な改善案	地元区長に、地域の土地の経緯等になるべく精通している方を推進委員に推薦して頂くよう、例年依頼しています。土地歴の浅い地権者に参考情報を提供して頂くことで、筆界未定件数の減少を目指します。			

課長評価	現状のまま継続する(継続)	理由	経済効果がただちに現れるものではありませんが、土地の確定は公益や権利の確定につながります。調査が完了するまでかなりの年数を要しますが、今後も継続して事業を実施したいと思えます。
------	---------------	----	--

臼杵市 事務事業評価シート
(平成 28 年度)

番号	課名	グループ名
D - 17	建設課	土木

事務事業名	市道新設改良事業（過疎債事業）						新規・継続 ソフト・ハード	継続 ハード		
総合計画との関連	主要施策名 (施策コード)	VI-17-38	適正な道路整備及び災害にも強い道路網							
	関連施策名 (施策コード)	Ⅲ-8-15	防災・減災のための整備							
		VII-21-53	交通安全対策の推進							
事業内容 (経緯)	臼杵市の交通体系において、主として基幹的な市道の整備について、市の財政負担の軽減ができる過疎債事業を活用して整備を行っています。（11路線、全体計画延長7,585m）									
基本項目	行動指 標	指標名	説明・算式・引用	単位	実績の推移			H28 実績値	H31 計画値	
					H25	H26	H27			
		①	整備済延長（単年度）	事業費による換算延長	m	1,786	756	508	760	309
		②								
	③									
④										
事業対象	道路利用者	成果	交通の流れが円滑になり、歩行者の安全を確保できるとともに、地域間の連携を強めることができ、また、トンネルや法面の補修を計画的に行うことで、災害を未然に防ぐことができます。							
成果指標	指標名	説明・算式・引用	単位	実績の推移			H28 実績値	H31 計画値		
	道路改良率	累計整備済延長／全体計画延長	%	H25	H26	H27				
				3550/7585 =46.8%	4306/7585 =56.8%	4814/7585 =63.5%	5574/7585 =73.5%	7323/7585 =96.5%		

コスト 事業費+人件費	フルコスト（千円）	内訳	国庫補助金（千円）	県補助金（千円）	市債（千円）	使用料・手数料・その他（千円）	一般財源（千円）
	155,878				147,400		8,478

評価の視点	評価	判断基準		理由
	必要性	目的が市民ニーズに照らして妥当か	A: 適応している B: 一部適応していない C: 適応していない	地域間を連絡する幹線市道で、市の活性化にも整備の必要性は高いと考えます。
	有効性	目的や目標に照らして予想される効果が得られるか	A: 期待したとおりの効果がある B: 期待したほどの効果が見られない C: 効果が少ない	利用者が、安全に通行でき、さらには移動時間の短縮が図れます。
	効率性	行政資源量（特にコスト）に対し合った効果があるか	A: 効率的に効果が出ている B: 改善の余地がややある C: 効率的に効果が出ていない	コスト縮減化した道路整備により、交通の利便性が向上することは、効率性は高いと考えます。
事業の問題・課題	道路整備に伴い、公共用地の取得が必要とされる路線がありますが、計画的に用地取得が進まずに事業の進捗率が停滞している路線も存在します。今後、さらに関係者へ協力をお願いしていく必要があります。			
前年度の改善案	土地所有者へ事業の必要性を理解していただき、適正な価格で用地取得できるよう、親切かつ丁寧な交渉に努めていきます。			
具体的な改善案	用地未取得箇所は後年施工とし、可能箇所を優先施工し早く完成させたい。			

課長評価	現状のまま継続する（継続）	理由	地区住民にとっては利便性や安全性の向上は図れるため、引続き事業を実施していきたい。
------	---------------	----	---

臼杵市 事務事業評価シート
(平成 28 年度)

番号	課名	グループ名
D - 18	建設課	土木

事務事業名		市町村急傾斜地崩壊対策事業						新規・継続 ソフト・ハード	継続 ハード	
総合計画との関連	主要施策名 (施策コード)	Ⅲ-8-15	防災・減災のための整備							
	関連施策名 (施策コード)									
基本項目	事業内容 (経緯)	県事業で対象とならない1戸以上5戸未満の区域において、急傾斜地の土砂災害を未然に防止し、住民の人命や家屋を守るため、対策工事を実施します。								
	行動指標	指標名	説明・算式・引用	単位	実績の推移			H28 実績値	H31 計画値	
					H25	H26	H27			
		①	累計整備戸数	平成13年度からの累計	戸	14	15	16	22	30
		②								
③										
④										
事業対象	急傾斜地の人命・家屋	成果	危険地域の崩落防止工事を行うことで、土砂災害等を未然に防止し、住民の生命と財産を守ることができます。							
成果指標	指標名	説明・算式・引用	単位	実績の推移			H28 実績値	H31 計画値		
	整備率（要望戸数は増加している）	整備戸数/要望戸数	%	H25 14/28 =50.0%	H26 15/28 =53.6%	H27 16/29 =55.2%	H28 21/31 =71.0%	H31 30/38 =78.9%		

コスト 事業費+人件費	フルコスト (千円)	内訳	国庫補助金 (千円)	県補助金 (千円)	市債 (千円)	使用料・手数料・その他 (千円)	一般財源 (千円)
	21,520			8,100	7,900	3,150	2,370

評価の視点	必要性	目的が市民ニーズに照らして妥当か A: 適応している B: 一部適応していない C: 適応していない	理由
	有効性	目的や目標に照らして予想される効果が得られるか A: 期待したとおりの効果がある B: 期待したほどの効果が見られない C: 効果が少ない	急傾斜地の崩壊を防ぐことは、市民の安心安全につながります。
	効率性	行政資源量（特にコスト）に対し合った効果があるか A: 効率的に効果が出ている B: 改善の余地がややある C: 効率的に効果が出ていない	経済性を考慮した工法検討を行い、コストの縮減を図ります。
事業の問題・課題	急傾斜地で崩壊危険性のある箇所は、要望箇所以外にも多くあり、十分な対策ができていないのが現状です。		
前年度の改善案	これから行う箇所について事業費が足りない箇所も出てくる恐れがあるため、条例の見直しが必要と考える。		
具体的な改善案	緊急度及び優先度を考慮し対応をすすめ、対策工事が完了していない箇所においては、避難の指標となる県の安全安心メール等の活用を呼びかけ、ソフト面での充実を図る。		

課長評価	現状のまま継続する（継続）	理由	県と市が85%の補助を行い、1戸以上の急傾斜地崩壊対策を行っているが、市の財政負担も大きいため、今後、県補助の増額要望を行い、事業を進捗していく必要がある。
------	---------------	----	--

臼杵市 事務事業評価シート
(平成 28 年度)

番号	課名	グループ名
D - 19	建設課	土木

事務事業名		交通安全施設整備事業						新規・継続	継続	
		ソフト・ハード		ハード						
総合計画との関連	主要施策名(施策コード)	VII-21-53	交通安全対策の推進							
	関連施策名(施策コード)	VI-17-38	適正な道路整備及び災害にも強い道路網							
基本項目	事業内容(経緯)	市内の市道は狭隘でカーブが多く、且つ見通しの悪い交差点が多いなど、通行に危険な箇所が多くあります。そのため交通安全施設に対する要望は毎年多く寄せられているのが現状です。本事業は、その要望に基づきカーブミラー、ガードレール、ガードパイプ及び区画線等の交通安全施設を設置するものです。								
	行動指標	指標名	説明・算式・引用	単位	実績の推移			H28実績値	H31計画値	
					H25	H26	H27			
		①	設置箇所数		箇所	29	29	25	39	30
		②								
③										
④										
事業対象	道路利用者	成果	危険な箇所での通行がスムーズになり、交通の安全性を確保することができます。							
成果指標	指標名	説明・算式・引用	単位	実績の推移			H28実績値	H31計画値		
				H25	H26	H27				
	安全性の向上	安全性が向上したか	%	○	○	○	○	○		

コスト 事業費+人件費	フルコスト(千円)	内訳	国庫補助金(千円)	県補助金(千円)	市債(千円)	使用料・手数料・その他(千円)	一般財源(千円)
	12,833						12,833

評価の視点	評価	判断基準		理由	
	必要性	目的が市民ニーズに照らして妥当か			地区からの要望も多く、安全に安心して通行できるように整備するものであり、直接生命に関わる施設整備であるため、必要性は高いです。
		A	A: 適応している B: 一部適応していない C: 適応していない		
	有効性	目的や目標に照らして予想される効果が得られるか			交通事故の防止を図り、併せて道路交通の円滑及び安全性の向上につながっている。
A		A: 期待したとおりの効果がある B: 期待したほどの効果が見られない C: 効果が少ない			
効率性	行政資源量(特にコスト)に対し合った効果があるか			道路の線形、状態を確認した上で、必要最低限の規格の交通安全施設の設置を行ったり、再利用できる交通安全施設についてできる限り再利用を行っている。	
	A	A: 効率的に効果が出ている B: 改善の余地がややある C: 効率的に効果が出ていない			
事業の問題・課題	最近、老朽化に伴う交通安全施設の修繕要望が多く、新規要望の対応が遅れ気味となっている。				
前年度の改善案	今後も緊急性の高い箇所から取捨選択して事業を実施し、老朽化の対応も行っていきます。				
具体的な改善案	今後は、新規や老朽化対策の双方で緊急性の高い箇所から事業を実施していく必要がある。				

課長評価	現状のまま継続する(継続)	理由	毎年要望があり、少しでも通行の安全確保及び事故の防止が出来るように施設の設置等、続けていきたいです。
------	---------------	----	--

臼杵市 事務事業評価シート
(平成 28 年度)

番号	課名	グループ名
D - 20	建設課	土木

事務事業名	社会資本整備総合交付金事業による市道改良事業							新規・継続 ソフト・ハード	継続 ハード	
総合計画との関連	主要施策名 (施策コード)	VI-17-38	適正な道路整備及び災害にも強い道路網							
	関連施策名 (施策コード)	Ⅲ-8-15	防災・減災のための整備							
		VII-21-53	交通安全対策の推進							
基本項目	事業内容 (経緯)	臼杵市の市道の一部において、幅員狭小・歩道未整備・道路施設の老朽化等により、道路利用者の安全安心が必要とされている路線があります。そこで「社会資本整備総合交付金」を活用して、臼杵市の社会資本の整備を実施し、地域安全環境を整えていきます。(12路線、全体計画延長9,083m)								
	行動指	指標名	説明・算式・引用	単位	実績の推移			H28 実績値	H31 計画値	
		①	整備済延長(単年度)	事業費による換算延長	m	H25 285	H26 824	H27 639	865	354
		②								
		③								
④										
事業対象	道路利用者	成果	交通の流れが円滑になり、歩行者の安全を確保できるとともに、地域間の連携を強めることができ、また、橋梁の補修を計画的に行うことで、災害を未然に防ぐことができます。							
成果指標	指標名	説明・算式・引用	単位	実績の推移			H28 実績値	H31 計画値		
	道路改良率	累計整備済延長/全体計画延長	%	H25 2977/9083 =32.8%	H26 3801/9083 =41.8%	H27 4440/9083 =48.9%	5304/9083 =58.4%	7758/9083 =85.4%		

コスト 事業費+人件費	フルコスト(千円)	内訳	国庫補助金(千円)	県補助金(千円)	市債(千円)	使用料・手数料・その他(千円)	一般財源(千円)
	303,539		130,562		162,700		10,277

評価の視点	必要性	目的が市民ニーズに照らして妥当か	理由
	A	A: 適応している B: 一部適応していない C: 適応していない	道路利用者の安全を確保し、交通の利便性及び円滑化が図れるため継続して整備が必要です。
	有効性	目的や目標に照らして予想される効果が得られるか	道路を整備することで、移動時間の短縮・交通事故の減少などの効果が発揮できています。
	A	A: 期待したとおりの効果がある B: 期待したほどの効果が見られない C: 効果が少ない	
効率性	行政資源量(特にコスト)に対し合った効果があるか	国の交付金制度を利用することにより、市の財政負担を低減しながらも市民の必要としている事業実施ができています。	
A	A: 効率的に効果が出ている B: 改善の余地がややある C: 効率的に効果が出ていない		
事業の問題・課題	道路整備に伴い、公共用地の取得が必要とされる路線がありますが、計画的に用地取得が進まずに事業の進捗率が停滞している路線も存在します。今後、さらに関係者へ協力をお願いしていく必要があります。		
前年度の改善案	土地所有者へ事業の必要性を理解していただき、適正な価格で用地取得できるよう、親切かつ丁寧な交渉に努めていきます。用地未取得箇所は後年施工とし、可能箇所を優先施工し早く完成させたい。		
具体的な改善案	用地未取得箇所は後年施工とし、可能箇所を優先施工し早く完成させたい。		

課長評価	現状のまま継続する(継続)	理由	土地所有者の理解をいただき少しずつではあるが用地取得が進捗している。今後も引き続き、地区と地区を結び重要な路線等であるため、早い完成に努めていきたい。
------	---------------	----	---

臼杵市 事務事業評価シート
(平成 28 年度)

番号	課名	グループ名
D - 21	建設課	土木

事務事業名		生活環境改善事業						新規・継続	継続	
		ソフト・ハード		ハード						
総合計画との関連	主要施策名(施策コード)	VI-17-38	適正な道路整備及び災害にも強い道路網							
	関連施策名(施策コード)	VII-21-53	交通安全対策の推進							
基本項目	事業内容(経緯)	これまで里道、水路の管理は地区にお願いをしていましたが、補修に対する要望があっても、制度上予算化が困難であったり、担当部署が曖昧で実施できにくかったものがあったため、生活に密着した要望に対し機動的かつ柔軟に対応するため、生活環境改善事業として里道・水路の補修を実施しています。								
	行動指標	指標名	説明・算式・引用	単位	実績の推移			H28実績値	H31計画値	
					H25	H26	H27			
		①	事業実施箇所数	実施箇所数	箇所	7	6	6	9	7
		②								
	③									
	④									
	事業対象	要望箇所の住民・利用者	成果	生活道路ではあるが市道でないため、公共工事ができなかったものや里道、水路等の生活環境の整備を行うことで、生活に密着した幅広い市民サービスが提供できます。						
成果指標	指標名	説明・算式・引用	単位	実績の推移			H28実績値	H31計画値		
				H25	H26	H27				
	満足度	受益者の満足度	%	100	100	100	100	100		

コスト 事業費+人件費	フルコスト(千円)	内訳	国庫補助金(千円)	県補助金(千円)	市債(千円)	使用料・手数料・その他(千円)	一般財源(千円)
	7,423						7,423

評価の視点	評価	判断基準		理由
	必要性	目的が市民ニーズに照らして妥当か		里道、水路の補修要望は年々増加傾向にあり本事業は今後も継続して必要です。
		A	A: 適応している B: 一部適応していない C: 適応していない	
	有効性	目的や目標に照らして予想される効果が得られるか		これまで整備困難であった里道、水路の補修が可能になります。
A		A: 期待したとおりの効果がある B: 期待したほどの効果が見られない C: 効果が少ない		
効率性	行政資源量(特にコスト)に対し合った効果があるか		少ない予算の中で整備の優先度を考慮し効率的に整備を進めています。	
	A	A: 効率的に効果が出ている B: 改善の余地がややある C: 効率的に効果が出ていない		
事業の問題・課題	里道、水路以外の生活道路に対しての要望が多く対応しきれない状況がある。			
前年度の改善案	市民からの要望をとりまとめ現地を確認し危険度・利用頻度等を総合的に判断し整備を進めます。			
具体的な改善案	現地調査により、施設の危険性や利用頻度等を考慮し整備を進めていきます。			

課長評価	現状のまま継続する(継続)	理由	高齢化も進む中、里道、水路の補修における地区対応が困難になってきており、今後も必要な事業であると思います。
------	---------------	----	---

番号	課名	グループ名
D - 22	建設課	土木

事務事業名	市道新設改良事業（地方道路整備事業）						新規・継続	継続		
						ソフト・ハード	ハード			
総合計画との関連	主要施策名 (施策コード)	VI-17-38	適正な道路整備及び災害にも強い道路網							
	関連施策名 (施策コード)	III-8-15	防災・減災のための整備							
		VII-21-53	交通安全対策の推進							
基本項目	事業内容 (経緯)	合併後の新市における交通体系について、幹線道路に接続する地域内の道路整備を行うことによって、市内全域の交流を促進し一体感の確立と地域活性化を図ります。旧臼杵・野津地域とともに、平成17年度より合併特例債を活用して事業を進めてきましたが、平成27年度より地方道路整備事業により地域間バランスを考慮しながら市道の整備を行っています。（全体計画延長22,557m）								
	行動指標	指標名	説明・算式・引用	単位	実績の推移			H28 実績値	H31 計画値	
					H25	H26	H27			
		①	整備済延長（単年度）	事業費による換算延長	m	1,011	1,079	753	400	585
		②								
③										
④										
事業対象	道路利用者	成果	交通の流れが円滑になり、歩行者の安全を確保できるとともに、地域間の連携を強めることができます。							
成果指標	指標名	説明・算式・引用	単位	実績の推移			H28 実績値	H31 計画値		
	道路改良率	累計整備済延長／全体計画延長	%	H25	H26	H27				
				14872/ 22557= 65.9%	15951/ 22557= 70.7%	16704/ 22557= 74.1%	17104/ 22557= 75.8%	18936/ 22557= 83.9%		

コスト 事業費+人件費	フルコスト（千円）	内訳	国庫補助金（千円）	県補助金（千円）	市債（千円）	使用料・手数料・その他（千円）	一般財源（千円）
	57,111				46,800		10,311

評価の視点	評価	判断基準		理由
	必要性	目的が市民ニーズに照らして妥当か		合併に伴い市内の移動距離が長くなることから、地元からの要望も強く、整備を行うことにより利便性や快適性の向上が図られ、ゆとりや交流が深まり地域の活性化に役立ちます。
		A	A：適応している B：一部適応していない C：適応していない	
	有効性	目的や目標に照らして予想される効果が得られるか		地域内の市道は、急カーブで幅員の狭い路線が多く、緊急車両の通行にも支障がありましたが、改良することにより防災面での効果も向上しています。
A		A：期待したとおりの効果がある B：期待したほどの効果が見られない C：効果が少ない		
効率性	行政資源量（特にコスト）に対し合った効果があるか		地域間を連絡する幹線市道等を除き、地域内の市道の拡幅は、工法検討によりコスト削減を図っています。また、用地を寄付して頂いて事業を実施しており、効率よく整備を行っています。	
	A	A：効率的に効果が出ている B：改善の余地がややある C：効率的に効果が出ていない		

事業の問題・課題	現在、市道は1,365路線あり、幅員が狭い等で日常生活に支障を及ぼしている路線も数多くあります。地区からも多くの改良要望がありますが、十分な対応ができていないのが現状です。
前年度の改善案	用地未取得箇所は後年施工とし、可能箇所を優先施工し早く完成させたい。
具体的な改善案	各路線の特徴を生かした整備を行うことで、コストの縮減化を図り、少しでも多くの市道整備ができるよう事業を進めていきます。

課長評価	現状のまま継続する（継続）	理由	地区住民にとっては利便性や安全性の向上は図れるため、引続き事業を実施していきたい。
------	---------------	----	---

番号	課名	グループ名
D - 23	建設課	土木

事務事業名		道路補修事業						新規・継続	継続
		ソフト・ハード		ハード					
総合計画との関連	主要施策名(施策コード)	VI-17-38	適正な道路整備及び災害にも強い道路網						
	関連施策名(施策コード)	VII-21-53	交通安全対策の推進						
基本項目	事業内容(経緯)	市道約616kmにおいて、区長及び市民からの通報や要望を受け、道路の修繕工事を行い原形に戻す事業です。							
	行動指標	指標名	説明・算式・引用	単位	実績の推移			H28実績値	H31計画値
					H25	H26	H27		
		① 実施事業費		千円	43,000	65,000	82,852	72,555	70,000
		② 点検パトロール回数		回	4	4	4	4	4
③ 補修工事実施数		件	57	69	89	70	70		
④									
事業対象	全市民	成果	安全で快適な生活環境の確保のため、地区からの要望や突発的な破損等に随時対応することで、より安全な通行やスムーズな道路側溝排水を確保することができます。						
成果指標	指標名	説明・算式・引用	単位	実績の推移			H28実績値	H31計画値	
				H25	H26	H27			
	単年度事業進捗率	単年度実施事業費÷単年度事業費	%	100	100	100	100	100	

コスト 事業費+人件費	フルコスト(千円)	内訳	国庫補助金(千円)	県補助金(千円)	市債(千円)	使用料・手数料・その他(千円)	一般財源(千円)
	75,628						75,628

評価の視点	評価	判断基準		理由	
	必要性	目的が市民ニーズに照らして妥当か			道路は市民生活に必要なインフラであり、市民の安全を守るためにその維持・補修は必要である。
		A	A: 適応している B: 一部適応していない C: 適応していない		
	有効性	目的や目標に照らして予想される効果が得られるか			事業完了後の地区住民の満足度も高く、直ぐに効果を発揮できます。
A		A: 期待したとおりの効果がある B: 期待したほどの効果が見られない C: 効果が少ない			
効率性	行政資源量(特にコスト)に対し合った効果があるか			原則原形復旧のため、十分に効率的である。	
	A	A: 効率的に効果が出ている B: 改善の余地がややある C: 効率的に効果が出ていない			
事業の問題・課題	道路施設の老朽化が進んでおり、要望等も多数あり、事業の進捗に年数がかかります。				
前年度の改善案	管理施設の老朽化に伴い、不良箇所が増加傾向にあり予算を増加して事業進捗の向上を図らなければならない。				
具体的な改善案	緊急性を考慮し、優先順位つけ事業を実施するとともに、予算の確保に努めたい。				

課長評価	現状のまま継続する(継続)	理由	高度経済成長長期に集中的に整備された施設は、老朽化が進み、今後も維持補修は重要であります。
------	---------------	----	---